

研究構想図



社会の要請

■笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育ててほしい。
(おおた教育ビジョン)

本校の教育目標

◎ 未来を切り拓くことも
友達を大切にすることも
運動で体をきたえることも
◎ 本気で学ぶことも
よく聞き話せることも

社会の要請

■地域や家庭の人々との交流を通して、自ら考え、判断し、行動できる力を高めてほしい。

児童の実態

■研究1年目で、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」、「自分にはよいところがあると思う」、「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」、「友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と感じた児童が増加した。
■「もち味（よさ）を生かして挑戦している」、「タブレット端末で情報を収集し、自分の考えをまとめ、発表することができる」と感じた児童が減少した。

教員の願い

■児童が得意なことを見付け、力を発揮してほしい。
■失敗を恐れずに新たなことに挑戦してほしい。
■地域とのつながりの中で学んでほしい。
■体験する楽しさや、伝える面白さを感じてほしい。
■タブレット端末を自信をもって活用してほしい。

おおたの未来づくり

教科担任制

研究主題

未来を切り拓く力の育成

～教科担任制を生かして～

目指すこども像

もち味を生かして挑戦するこども

未来を切り拓く力とは

本校では、教科「おおたの未来づくり」育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」と定義し、それを達成した児童の姿を「もち味を生かして挑戦するこども」とした。

研究主題設定の理由

本校では、児童が豊かな創造性を備えた持続可能な社会の創り手となることを目指している。そのために、知・徳・体の学校の教育目標「とうほよ」の上位目標として、令和6年度より「未来を切り拓くこども」を新たに掲げた。これは、児童が変化の激しい未来社会を主体的に生きていくために必要な資質・能力を育成するためである。本研究は、この学校の教育目標を実現するための取組である。そこで本研究では、教育目標の実現の中核としたい大区独自の教科「おおたの未来づくり」の授業研究を通して研究主題に迫ることとした。

さらに、本校の特色ある教育活動を支える教科担任制を通して、教科の専門性を生かした質の高い授業を行い、多面的・多角的な児童理解の促進を図り、複数の教員で学級を見守ることによる学級の安定化を図る取組を生かして本研究を推進したいと考え、副題を設定した。

以上より、本研究主題を「未来を切り拓く力の育成 ～教科担任制を生かして～」とした。

目指すこども像設定の理由

「未来を切り拓く力」をよりイメージしやすくするために、目指すこども像を設定した。本校の教員が話し合い、「得意なことを生かしてほしい」、「失敗をおそれずに挑戦する姿勢を育みたい」、「自己肯定感を高めたい」、「なりたい自分を見付けられるようにしたい」などの意見が出され、「もち味を生かして挑戦するこども」というこども像を設定した。自分や他者のよさを生かして主体的に取り組もうとする態度を身に付けさせたいという願いを込めた。

本校の授業改善に関する資質・能力

未来を切り拓く力

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、人間性等

各教科等で育む資質・能力

未来を切り拓く力の素地

言語能力

情報活用能力

問題発見・解決能力

粘り強さ

コミュニケーション能力

協調性

自己調整

学習の基盤となる資質・能力

非認知能力など

研究方法

研究2年目の指導の手だて

個別最適な学びと協働的な学び

ICT等の活用

振り返りの充実

日々の授業改善

分科会

日々の授業での成功・失敗を持ち寄る。指導の手だてのバリエーションと、学年ごとの系統性を提案する。

授業研究

未来を切り拓く力を育成するための指導の手だての有効性を検証する。

アンケート調査

児童を対象としたアンケートを実施し、実態把握及び効果検証を行う。

仮説生成型の研究

どのような指導の手だてが有効なのかという仮説を生成する。
日々の授業改善を含めた授業研究を通して、柔軟に指導の手だてを検討、改善することができるよう、仮説検証型ではなく、仮説生成型の研究とする。

※研究1年目に蓄積した中から3つに精選